（様式1）　　令和　3　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0572608230		
法人名	有限会社　エネルギーのささき		
事業所名	グループホームやまゆりの家		
所在地	秋田県大仙市南外字下木直５１９－４		
自己評価作成日	令和4年1月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　秋田マイケアプラン研究会
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地１４２－１
訪問調査日	令和4年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

＊ホーム周辺の遊歩道を、風を感じ、四季折々の風景と草花等を楽しみながら散歩して頂いている。新鮮な畑の野菜や果物、やまゆり田園で収穫したお米を皆で感謝しながら味わう喜び。これからも自然豊かな環境を活かしながら、入居者様と共に歩んでいきたい。
＊定期的に勉強会を行い、入居者が安心・安全に生活して頂けるよう、全職員、知識・技術の向上に努めている。
＊年２回火災時避難訓練の他、年１回の水害時避難訓練や各棟にて地震時の避難訓練シュミレーションを実施し、入居者が安全に迅速に避難できるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者の状況や変化に応じて話し合い、その内容を共有して対応している他、急変時や災害時等の有事に備えて両ユニットの利用者の情報も共有して支援にあたっています。コロナ禍で外出支援が困難な中にあっても気分転換できる環境にあることからホームの農園作業や駐車場を利用した収穫祭を楽しみ、その人毎の生活リズムを大切にし、ホームでの暮らし方が生活リハビリに繋がるものと認識して日々取り組んでいます。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
64	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく地域の方々と共に支え合いながら暮らし続けることを理念としている。代表者と管理者と職員は、理念を共有し、申し送りの際、理念を唱え日々のケアへの心構えや意識付け、又、再確認しながら実践に取り組んでいる。	利用者一人ひとりの理解に努め、その人のペースを守って過ごしていけるよう支援しています。職員が各自自己評価を行って業務を振り返り、実践に繋げていくことができるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、園児・小・中学生のホーム訪問や運動会・発表会等への招待、ボランティア、避難訓練への参加等、地域の方々との交流が難しい状況であった。しかし、卒園式や入園式、発表会等へ招待できない事への手紙やお電話をわざわざ頂き、入居者を気にかけてくださっている事に対して、地域とのつながりを感じた。地域の方より旬の野菜や漬物等を頂いたり、秋には小学生が育てたさつま芋を頂いている。	地域の方々や子ども達と例年のような利用者との交流は中止せざるを得ない状況ですが、子ども達と手作りの作品を交換したりして間接的に交流を続けており、地域の方とは野菜の差し入れ等で通常と変わらないお付き合いをしています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	「認知症なんでも相談所」を開所しており、介護等の悩みや困りごとの相談、見学の受付等している事を事業所の看板やパンフレット、やまゆりの家通信に掲げている。これまで、見学者や何件か困りごとの相談を受け、対応させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議は、書面での開催となった。事業所の取り組みや避難訓練の報告等の資料を送付させて頂き、書面にて様々な意見等を頂くとともにその意見等を共有させて頂く形での会議となった。会議内容や報告を全職員に回覧し、それをサービス向上に活かしている。	書面上で意見交換しており、その内容を職員が共有して運営に反映できるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議・認定調査時・ケアマネ通信を毎月届けて下さる時・電話等にて、市町村担当者と、入居者の暮らしぶりや入居者の状態についての相談、ケアサービスについての相談等に応じて頂くなど、協力が得られるよう取り組んでいる。これまでの大雨や災害時は市町村職員と連絡を取り合いながら、入居者の安全・安心確保に努めている。	包括支援センターから行政情報の提供等がある他、生活保護担当職員と定期的に情報交換し、利用者の生活支援に繋げています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を年4回開催し、又、身体拘束をしないケアについての勉強会を年2回行い、マニュアルの再確認や事例検討等にて正しく理解し取り組んでいる。又、施錠は夜間のみで、日中は、ホールから玄関が見渡せるので見守りを強化し、安全を確保しつつ自由な暮らしができるよう支援している。	研修は数日に分けて行うことで全職員が参加できるよう取り組み、理解と認識を深めています。過剰な制約を避け、利用者の状況に応じて工夫することで身体拘束をしないケアを実践しています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の資料をもとに勉強会を行っている。事業所内での虐待の見過ごし等ないように全職員、注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、権利擁護に関する制度の勉強会を開き、理解に努めている。又、現在、利用されている入居者もいるが、必要と考えられる入居者やその家族と話し合い、関係機関等との相談・連携を図り活用につなげ支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時、改定等の際は、入居者や家族等に十分な説明を行うと共に、不安や疑問点等ないか確認しながら手続きを進め、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン作成時等、意見や要望等ないか聞いたり、又、利用者家族等アンケートや運営推進会議でも入居者や家族等に意見を表せる機会を設け、話し合い、運営に反映させている。	運営推進会議で或いは電話や来訪時に意見、要望等が引き出せるよう働きかけ、運営に反映できるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、日頃から現場の状況や職員の意見を聞く機会を設けたり、会議や自己評価等で、職員の意見や提案に耳を傾け、お互いに意見等を出し合い話し合い、運営に反映させている。	ユニット間の情報の共有を図り、また、日常的な話し合いの中から出される意見、提案が利用者のホームでの暮らしに活かされている他、環境の改善にも職員の意見が反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の休日や勤務形態の希望を取り入れ勤務表を作成したり、日頃から職員の話しや悩み等を聞き理解するよう努めている。又、職員の日頃の努力や実績、勤務状況等把握し、職員処遇へ反映するよう努めている。（資格手当や勤続表彰等）		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の立場、経験や習熟度の段階に応じて、事業所内外の研修を受ける機会を積極的に設けている。又、資格取得に向けての講習会や勤務等への配慮をしている。職員一人ひとりのケアの実際と力量等に合わせて、技術や知識を身に付けていけるように、繰り返し教え支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者自身や管理者や職員は、各種研修会等に積極的に参加し、地域の同業者と交流する機会を作っている。又、管理者は同業者の来訪時や電話等にて、相談や質問、情報交換等行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や事前訪問面接の際などに、本人自身から不安な事や困っている事、望んでいる事等に耳を傾け話を聞き、本人の気持ちを受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や事前訪問面接、電話にて、本人や家族等の状況を十分に把握し、家族等の立場に立って、家族等の不安や悩み、要望等に耳を傾け家族等の思いを理解するよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から「理念」を実践し取り組んでいる。本人との関わりを多く持ちながら一緒に過ごす中で、本来の個性や力が発揮できるようにお互いに尊重し支え合う関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限中ではあるが、毎月のおたよりにて入居者の日頃の様子をお伝えする事で、情報共有が出来ている。又、来訪時や電話等でもお伝えしており、その際は、入居者の生活に対する意向や悩み等ないか家族と話し合う機会をもつようにしている。家族等が面会を希望される場合は、あらかじめ日時を連絡して頂ければ短い時間だが面会できるように配慮する等、一緒に支えていく関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、外出等は控えて頂いているが、ヤクルト訪問販売員・ホームに来て下さっている床屋さん・食材配達に来てくれる地域のスーパーの店員さん等、馴染みの方と挨拶や会話等にて関係を続けられるよう支援している。時々、入居者の子供や兄弟が電話をかけてきて下さる時もあり、電話をとりついでいる。今後落ち着いた際は、家族や親類の協力を得ながら、外出等にて馴染みの人や場所との関係を続けられるよう支援していきたい。	コロナの影響で制限を設けており、例年のような帰宅、墓参り等は叶わないものの、電話をかけてきてくれる家族は多く、その関係性は継続できています。編み物や折り紙等の得意なことも生活の中に取り入れ、続けていけるよう支援しています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、お茶の時間やレクリエーション、生活リハビリ等を通じて、お互いに関わり合い、支え合い、よい関係が作れるように、職員間に入り会話や交流が持てるよう支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、いつでも相談に応じる旨や、気軽に遊びに来てくださるよう、お話している。又、移り住む先の関係者に対して、本人の状況やこれまでのケアの工夫等の情報を伝え、これまでの暮らし方の継続等に配慮してもらえるよう働きかけている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にホームで暮らしている中での思いや意向等を聞いたり、本人との会話の中から思いや希望等を引き出しながら、把握するよう努めている。把握が困難な場合等は、本人の視点に立って意見を出し合い話し合っている。	日々の生活の中での会話や表情、行動からその人の思いを汲み取り、情報を確実に申し送って職員間で共有し、ホームでの暮らしに活かされています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりのバックグラウンドアセスメントを作成し、暮らしや職歴、趣味等、これまでのサービス経過等の把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理日誌、ケース記録、申し送り等での把握はもちろんの事、入居者一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態、レクリエーションへの参加や生活リハビリ等で有する力等、総合的な把握に努め、情報を共有している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から、家族等に本人の暮らしぶりや心身等の状態をこまめに伝えるとともに、入居者や家族からの意見や要望等を聞き取り話し合い、課題と支援のあり方について、本人本位の検討を行っている。又、気付きやアイディアを出し合い、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画の支援内容を確認しながら記録しています。担当職員と計画担当者がモニタリングし、他の職員の意見も聞いて介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの日々の様子、ケアの実践・結果、気づきや工夫等を管理日誌やケース記録に記入し、常に情報を共有しながら話し合い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍で、近くの商店での買い物、地域の方々による民謡や舞踊、園児や小・中学生との交流等は難しい面があるが、協力医療機関の医師の訪問診療や往診、薬局との連携、消防署員立会いの避難訓練、日常生活自立支援事業、理容師、ヤクルト訪問販売等、地域資源の理解と協力を得ながら、入居者の安全と安心に努め、より豊かに過ごせるように支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族等が馴染みの医師等による継続的な医療を受けられるよう、又、状況に応じて希望する医療機関を受けれるよう支援している。事業所の協力医療機関をかかりつけ医とする場合は、十分な説明をし、入居者と家族等の同意を得てから支援している。	協力医による訪問診療が行われており、緊急時等、常に連絡、相談できる関係であり、安心して医療を受けることができます。協力医以外の診療科の受診は家族の介助によって行われています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者一人ひとりの心身の状態や変化を、訪問診療の際、医師と看護師に報告・相談している。又、状態によっては、電話にて相談し適切な助言を頂き、入居者一人ひとりの健康管理や医療支援につなげている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は、医療機関に対して入居者の情報提供をしている。又、早期退院に向けて入院中も、病院関係者、入居者・家族等と相談・話し合いをしながら、必要な支援をしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状況や状態を見極め、早期から、入居者・家族等、かかりつけ医と繰り返し話し合い、又、事業所でできることを十分に説明しながら対応方針の共有を図り支援に取り組んでいる。	医師の協力が得られないこともあって終末期のケアには対応しておらず、家族にはホームで支援できる内容を説明し、理解していただけるように取り組んでいます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、入居者の急変や事故発生に備え、救急マニュアルにて勉強会を行うとともに、常に目を通し把握している。又、年に数回、応急手当の実践訓練を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力のもと日中・夜間想定の避難訓練（火災）の他、年1回水害時避難訓練や地震時の避難訓練シュミレーションを行っている。コロナ禍の為、地域住民の方々へ火災時避難訓練を行うお知らせはしたが、参加を控えて頂き、住民役を会社関係者で行っている。避難訓練後には、代表者・管理者・職員で反省や意見等出し合い、今後の対策を検討している。又、マニュアルにて非常災害発生時の対応について勉強会を行っている。	さまざまな災害に対応できるよう利用者と共に訓練を行い、訓練後の反省を活かすことができるよう取り組んでいます。非常口の雪寄せをして安全を確認し、予備の車椅子も用意しています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員、倫理・法令等遵守勉強会にてプライバシー保護について学んでいる。入居者一人ひとりを受け止め、人格を尊重した上で言葉掛けや対応等を行うよう配慮している。	言葉遣いや声がけの仕方に注意し、利用者の気持ちに配慮した対応を心がけています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの内容・着用する衣類・献立・飲み物等、日常的に自己決定できるように働きかけている。入居者が言葉で十分な意思表示ができない場合でも、表情や全身の反応から表される意思をくみ取りながら支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナ禍の為、近くの店での買い物は控えたが、畑での野菜の収穫や気分転換に散歩をしたり、趣味のおりがみを楽しんだり、新聞を読んだり、脳トレや日記を書いたり等、入居者一人ひとりの生活リズムやペースを大切にし、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者が選んだ衣類や髪型等、個性を大切にしながらおしゃれを支援している。行事の際、化粧をして頂くなど気分転換も兼ねながら、おしゃれを楽しんで頂いている。使い慣れたフェイスクリーム等を準備させて頂く等の支援をしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と一緒に、野菜を刻んだり、味付けや味見、盛り付け、米とぎをしたり等、一人ひとりの力に合わせて支援している。又、一緒に畑から旬の野菜を収穫し、その食材を調理したり、食事の準備をする事で、食事に関心を持ち食事を楽しむことができるよう働きかけている。	普段から食事に関する過程を利用者に参加していただきながら一緒に行っています。毎日の食事はもちろんのこと、農園の作業や差し入れの野菜の下処理等、利用者の力が発揮できる場面が多くつくられています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の野菜を取り入れながら、栄養バランスを考慮した献立表を作成している。入居者一人ひとりの食事量や水分量を把握するとともに、一人ひとりの好みや習慣、食事の様子等を把握しながら、形態や食器の工夫、その方にあった介助等、全体を通した食生活の支援をしている。又、訪問診療等の際は、体重の増減・食事量・水分量等の相談をし、医師の助言を頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は、毎食後、入居者一人ひとりの口腔状態や力に応じた口腔ケアを支援し、清潔保持に努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により入居者一人ひとりの排泄パターンを把握している。一人ひとりの力やパターン、習慣を活かして、排泄の自立・排泄の失敗・不安等、自尊心に配慮した声掛けや誘導、介助を支援している。	トイレで排泄したいという利用者の思いを大切にしています。利用者は昼夜共トイレで排泄しており、チェック表を活用してその人の状況に応じた支援が行われています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促す為に、毎朝牛乳・ﾖｰｸﾞﾙﾄ等の乳製品の提供やこまめな水分補給、レクリエーションでの体操や歩行運動、散歩等取り入れ、便秘予防に取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの希望や時間帯、気分や健康状態等に合わせて入浴を支援している。入浴中は会話をしながら、気持ちよくゆったりと入浴できるよう配慮している。畑での収穫後や夏場の暑い時期等には、曜日や時間帯にとらわれず、いつでもシャワーや入浴をして頂けるよう支援している。	時に声がけに工夫が必要なこともありますが、概ねスムーズな入浴に繋げることができており、週3回の入浴を安全に配慮しながら支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの生活習慣や数日間の活動状況や出来事等を把握し、本人のリズムに合わせながら、又、入眠しやすい環境を整えながら、その時々の状況に応じて休息したり安眠できるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの内服薬等の効能が記載されている資料をファイルし、職員は薬の目的等の理解に努め、正しく服薬できるよう支援している。入居者の状態の経過や変化等の記録を、かかりつけ医に情報提供し、今後の治療や服薬調整に活かせるよう努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの持っている力を見い出しながら、食材切り・盛り付け・米とぎ・食器拭き・洗濯物干し・おしぼり干し・おしぼりたたみ・掃除等の役割作りを支援している。又、職員と一緒に歩行運動や足上げ運動を行ったり、散歩や野菜の収穫を楽しんだり、ゆっくり新聞を読んだり、日記を書いたり、趣味のおりがみ、嗜好品の提供等、楽しみや気分転換等の支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を散歩したり、外気浴をしながら体操や歌を唄ったり、野菜の収穫をしたり等、日常的に戸外に出掛けられるよう支援している。田植え・朝顔の種まき・さつま芋の苗植え・稲刈り・さつまいも掘り等への参加や見学等にて、外気浴しながら両棟の入居者同士の交流を支援している。桜見学や蓮の花見学ドライブも楽しんで頂いている。コロナ禍が落ち着いた際は、これまでのような外出行事や近くの商店へ買い物に行く等にて外出を支援していきたい。	コロナ以前のような外出は控えていますが、雪の季節以外はホーム内に閉じこもることのないように支援しています。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者や家族と話し合い、管理方法等を取り決めし、入居者一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。買い物の際は、なるべく入居者がお金を持ち、支払う機会を作れるよう支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は入居者がいつでも使用できるようにしている。使用する際は、ご本人の有する力に応じ、プライバシーに配慮しながら支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室とホールにはブラインドが設置され、日差しを調整したり、換気扇の使用や一日数回窓を開けて空気の入れ換えをしたりと、入居者が快適に過ごせるよう配慮している。廊下やホールには、季節感を感じて頂けるよう、季節の花や植物等を飾ったり、装飾をしたり工夫している。	快適な生活空間を保つことに努め、掃除を手伝ってくれる利用者もおります。廊下、ホールは広く、明るい造りで、ゆったりとした気持ちで過ごすことができる空間となっています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下には、ソファーや長いすが置いてあり、入居者にとってくつろぎの空間となっている。気の合った入居者同士で会話を楽しまれたり、ひとり、外の風景を眺めたりと思い思いの場所で過ごされている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や家族と相談しながら、使い慣れた時計やラジカセを置いたり、写真、装飾品等を持ち込んで頂いたり、居室に畳を敷いたり等、自宅での生活と同じように安心して生活して頂けるように支援している。	自宅に居た時のように過ごせる環境づくりがされ、一人ひとりの思いに沿って生活できています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーである。廊下や便座横に手すりがあり、浴槽にも手すりや滑り止めを設置し、身体機能を活かし安全に生活して頂けるようにしている。又、各居室の表札の上には、種類や色の違う造花を飾り、目印となるようにしたり、トイレも分かりやすいように表示したり、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		